マドリッド歯科医夫妻による休日返上の山の村の無料診療。私たちの活動は、現地のボランティアにも支えられています。

ビラーン通信 77号

2014年4月30日発行

NPO法人ビラーンの医療と自立を支える会
（英文名略称・ＨＡＮＤＳ）
本部：〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町516-11
TEL & FAX:045-500-9151
E-mail: hands-mindanao@nifty.com
http://homepage3.nifty.com/hands/
郵便振替口座　00210-5-72693
（加入者名）ビラーンの医療と自立を支える会

医療の自立により近いのは？－協働19年目のカトリックミッションと13年目のムスリム医療チーム-

「イワシの缶詰の寄付について、巡回診療に集まった住民にそのまま配ったと報告したら、缶詰会社から寄贈打ち切りを言われた。」この報告を、CMIPヘルス担当ジョジョさんの2月レポートに見付けた時、残念と思うより先に寄付企業の対応の方に共感を覚えました。それは、12月分報告に添付されていた「給食活動」のタイトルの写真で、巡回診療に同行した神父が段ボールから缶詰を取り出し、住民に配ったことを知っていたからです。単なる缶詰配布を「給食活動」と名付けていたことが気になって、折り返し、今後は寄付缶詰に住民の裏庭菜園の野菜を加えた安くて栄養バランスの取れた給食か、少なくともその献立指導をしてほしいと返信しました。

CMIPは教会ベースの組織であり、貧しい人々への物品配布はよくある活動です。巡回診療での缶詰配布も不適切と思わなかったでしょう。また、CMIPを通じての巡回診療そのものも、一日200人を超す風邪や下痢などの患者に、ジョジョさんが問診して市販薬を渡し、歯科診療は、1回で治療が終わる抜歯が多い等、緊急支援的、対症療法的なものになりがちです。それでも病院から遠く離れた辺境の住民が、歯痛から解放されて畑仕事の能率が上がり、風邪をこじらせて肺炎になる子どもが減る等、私たちの支援が、ジョジョさんや歯科医師夫妻の労をいとわぬ山の村巡りにより、十分生かされているのも事実です。また、ジョジョさんなりに、限られた巡回診療を最大限生かして、風邪に効くラグンデ茶常備を勧め、健康保険加入を増やす努力を続けています。

しかし、「自立」を、支援が不要になることとするなら、辺境の村を次々と医療や教育支援対象に加えていく宣教団CMIPと働く限り、それぞれの地域について、医療の「自立」を見届けるのは難しそうです。

一方で、今年13年目を迎えたムスリム医療チームPIHSとの協働では、本格的支援1年目のブラコン地区でも、組織されたヘルス組合の活動は大変活発で、母親の識字教室や栄養衛生研修を通じて、地域のサリサリストアーに添加物入り菓子を置かないようにしたり、一人の幼児の死を無駄にしないため、不衛生な排泄習慣を改善するトイレ普及に取り組むなど、住民主導の医療費のかからない健康な村作りへの始動が認められます。(写真：ヤシの木陰のミーティング)

また、ヘルス組織MULANやバロンギスでは、自前の資金で研修等実施できるようになり、メンバーの収入も増えて、多少の医療費は自己負担できるようになりました。

一方でムスリム地区ならではの活動を阻む要因もあります。和平実現の期待が高まるミンダナオですが、南西部で活動するNGO情報で、政府軍とイスラム過激派分派との衝突が散発していると聞くと、政府軍が事業対象のキアンバに一時駐留し、活動が後退した2008年を思い出します。ムスリムの村は海岸部に多く、洪水被害も受けがちです。それでもゴールへの道筋が見える活動という点で評価できるため、代表のナプサさんの知人友人の支援も増えてきました。HANDSも今年は助成団体からの資金ではなく、小口でも柔軟に使ってもらえる支援会費を充当して支える予定です。

（山﨑・関連記事Ｐ4）